

校長室だより

杉並区立向陽中学校
4月号 平成28年4月23日発行
校長 菅野武彦

「人間賛歌が響き渡る学校づくり」を目指して

【今年度のキーワード】

「建設的な和～みんなの向陽中学校～」

保護者の皆様並びに地域の皆様方、日頃より向陽中学校の教育活動への御理解と御協力を賜りまして誠にありがとうございます。毎月中旬発行の「向陽だより」では伝えきれない学校としての考えや教職員の生徒との関わり、そして生徒の様子などをお知らせすることを目的として、「校長室だより」を毎月下旬に発行してまいります。学校からの一方通行の情報発信にならないように気をつけてまいります。保護者の皆様や地域の皆様からの御意見・御要望などもお待ちしております。御忌憚のない意見をお聞かせください。4月号は「平成28年度 学校経営計画」の掲載のため、8ページとなっております（通常はA4版表裏）。

◇ 平成28年度「学校経営計画」をお知らせします。

1 はじめに

今年1月の“特色ある学校づくり”の企画提案書のなかで、私は「この下高永福地域で育まれた気質なのか、本校生徒は明るく元気で活動的である。特に運動会や向陽祭等の学校行事で見せる生徒の一体感は見ている爽快である。また、部活動においても運動系を中心に活力あふれる姿が見られる。昼休みの校庭は元気に遊ぶ男女生徒であふれている。生徒は“あいさつができる”ことを本校のよさと感じているようだ」と書きました。いわゆる子どもらしさを発揮できるところが本校生徒の持ち味であり、このよさを伸ばし続けたいと思っています。

私の学校経営の目指すところは、「教職員が気持ちと力を合わせ、生徒一人一人の命を輝かせ成長を図ること」、そして、その結果として「向陽中学校の生徒を見てください！」と言えることです。生徒の教育に欠かせないものとして、保護者・地域（学校運営協議会・学校支援本部）・小学校の教職員、そして私たち教職員といった“大人側の結束”があります。私は校長としてこの結束を図る中心的役割を果たしていきたいと思えます。

この1年間の学校経営のキーワードを「建設的な和～みんなの向陽中学校～」とします。この「建設的な和」という言葉は私自身がこれまでの教職経験から得た教訓です。これに副題として「みんなの向陽中学校」を加えました。これには、「生徒と教職員が保護者・地域と力を合わせ、向陽中学校をつくる。つまり、生徒一人一人に“自分がつくる”意識をもたせる。教職員一人一人が“自分がつくる”意識をもつ」という願いを込めました。

新年度のスタートにあたり、私自身への戒めも含め皆さんと「建設的な和～みんなの向陽中学校～」を共有したいと思います。1年間よろしくお願いいたします。

子どもの教育の原点は「子どもに関心を持つこと、子どもにかかわること」であることを大人が肝に銘じましょう。子どもは大人を見ています。生徒は先生を見ています。そこに人間的な関わりが生まれます。「生徒の声に耳を傾け、生徒の心を開かせ、生徒の心に響く」指導を全員で実践しましょう。そして、人として生きることの素晴らしさを伝えていきましょう。新年度のスタートにあたり、保護者・地域の皆様・小学校の教職員、そして本校教職員と「建設的な和～みんなの向陽中学校～」を共有したいと思います。

最後に、人としての土台となる“こころづくり・ひとづくり”を端的に表現したものに『時を守り、場を清め、礼を正す』という言葉があります。

◇時を守り・・・特に社会的な人間関係では時間を守ることは基本

◇場を清め・・・3つのS「整理・整頓・掃除」

◇礼を正す・・・あいさつ、礼儀、マナーなど

大人がしっかりと生徒に手本を示し、地域ぐるみで生徒を育てましょう。そして、生徒に「正しいこと」を教える時、“共感”という同じ目線のやさしさと思いやりをもちましょう。そうすれば、きっと心に響くはずです。先生方には是非とも生き生きと生きる姿を生徒に見せてほしいと思います。そして、生徒の成長を飲む「人間賛歌」を一緒に歌いましょう。

2 教育目標（◎が今年度の重点）

◎よく考える人 ○思いやりのある人 ○たくましい人

3 めざす生徒像

- (1)他人への思いやりと感謝の心を持ち、共に生きることのできる生徒(思いやりのある人)
- (2)◎自己理解を土台として、よく学び、自ら判断し行動できる生徒(よく考える人)
- (3)進んで心と体を鍛え、困難に立ち向かうことのできる生徒(たくましい人)
- (4)“貢献”の意義を理解し、さまざまな場面で実践できる生徒(思いやりのある人)

4 めざす学校像

生徒の成長を約束する学校

- (1) 生徒の笑顔と友情、そして活力あふれる向陽中学校

授業で先生方の最高のパフォーマンスを！

- ① 生徒が授業で活躍する姿を演出する。言語活動をその有効な手立てとして！
- ② 生徒が「分かった！なるほど！できた！」と意欲的に取り組む授業を実践する。

- ③ 生徒が笑顔で元気よくあいさつする姿、来客にあいさつする姿を演出する。
- ④ 生徒が学校行事で活力あられる姿を披露できるよう指導する。

(2) 「生きるって素晴らしいな！」人間賛歌が響き渡る向陽中学校

大人が生き生きと生きる姿を見せましょう！

- ① 「生きること＝人との関わり」であることを大人が生徒に手本を示す。
- ② 生徒に役割と目標を与え、その取り組みへの指導を通して成就感を味わわせる。
- ③ 全員で「生徒の声に耳を傾け、生徒の心を開かせ、心に響く指導！」を実践する。
- ④ 全員で『平成 28 年度生活指導基本方針』を基に生徒指導に当たる。

(3) 生徒も大人もみんながかかわり、誇りと生きがいを感じる向陽中学校

人を教導くことへの責任感と真摯な態度！

- ① 生徒一人一人に公平に接すること、共感的態度で指導に当たることが鉄則です。
- ② 生徒に要求することは教職員が大人として率先垂範する。
- ③ 教職員は家庭・地域（学校運営協議会・学校支援本部）・小学校の教職員と連携を図る。
- ④ 教職員は自分の強みや持ち味を大いに発揮し、「建設的な和 ～みんなの向陽中学校～」を大切にす。

(4) 高井戸第三小学校と永福小学校の児童があこがれる向陽中学校

“人を愛し、人から愛される子”を育てる！

- ① “子どもは地域の宝物”・“学校は地域の宝物”を学校・家庭・地域が共有する。
- ② 生徒が安心して生活できる安全な環境を整えることは学校の重要な役割です。
- ③ 小学生の「向陽中学校への期待」が膨らむ小中一貫教育を推進する。
- ④ 小中教員の「知り合う→分かり合う→生かし合う」関係づくりを推進する。

5 特色ある教育活動（※平成 28 年度教育課程届より）

- (1) 向陽中学校区小中連携推進協議会を定期的開催し、小学校との学びの連続性や学習規律、生活指導の在り方を検討する。また、各教科等で指導方法の工夫改善を図るため、授業公開や研修会等を実施し、情報交換を深め、生徒へのきめ細やかな指導を行う。
- (2) 学校司書と教職員とが連携し、学校図書館の機能を高め、朝読書の活動を充実させるとともに、学校司書と協力した授業を行い、言葉の教育を実践する。
- (3) 土曜授業では、「向陽祭」や「震災から身を守る体験活動」等を地域の方々の協力を得ながら実施することにより、生徒たちと地域の交流を深め、いのちをさらに大切に心を育む。
- (4) 第 1 学年でフレンドシップスクールを実施し、自然体験・共同生活体験を通して、学級や学年内の人間関係づくりを進める。

- (5) 生きることへの感謝の気持ちとお互いを思いやる心、そして自他の命を大切にすることを育み、生徒に「人として生きることの素晴らしさ」を実感させる教育（人間賛歌教育）を推進する。

6 保護者・地域・小学校との連携（地域運営学校として）

- (1) 生徒の基本的な生活習慣及び学習習慣の確立、そして健全育成については、保護者・地域との十分な連携を図る。
- (2) 保護者・地域への学校公開を通して、教育活動に対する意見や要望を受信するとともに、学校だよりや学年だより等による教育活動の発信を行う。
- (3) 学校経営の発信（校長室だより）及び学習指導計画・評価計画の公表、また学校評価アンケートの結果及び改善策の公表等を通して、学校の説明責任を果たす。
- (4) 学校支援の立場で活動しているPTA活動との連携及び協働を推進する。
- (5) 学校支援本部との連携による学習支援及び活動支援により生徒の学びを深める。
- (6) 高井戸第三小学校及び永福小学校との連携・交流により生徒のよりよい成長を図る。

7 「高三・永福・向陽」小中一貫教育

- (1) 3校小中一貫教育を推進し、児童・生徒のよりよい成長を図る。
- (2) この地域の子どもたちを“人を愛し、人から愛される子”に育てる。
- (3) 平成28年度小中一貫教育全体計画に基づき3校小中一貫教育を推進する。

8 学校運営方針

- (1) 学年や分掌組織のチームワークを大切にし、学校全体として組織的・機能的な学校運営を行う。
- (2) P(計画)→D(実施)→C(評価)→A(改善)サイクルによる学校運営・組織運営を行う。
- (3) 個人として、
 - ア 当事者意識をもって、自己の役割と責任を果たし、「やるべきこと」から逃げない。
 - イ 生徒とともに活動する姿勢、率先垂範する姿勢を堅持する。
 - ウ 自己の強みを十分に生かすとともに、課題にも正対し改善する自己研修を行う。
 - エ 常に『平成28年度生活指導基本方針』に戻って再確認する。
- (4) 組織として、
 - ア 誰もが「報告・連絡・相談」をしやすい教職員集団にする。
 - イ 誰にも得手・不得手がある。お互いをカバーし合い、支え合える教職員集団にする。
 - ウ 一人一人が自らの力量を十分に発揮し、切磋琢磨する中で教育活動が展開されるよう、「建設的な和 ～みんなの向陽中学校～」を大切にする。
 - エ 学校として研究課題を明確にして、校内研修会を充実させる。授業研究は不可欠。
 - オ 生徒や学校の様子を保護者・地域に伝えるとともに、学校の考えや姿勢を示す保護者・地域への学校公開及び情報提供を重視する。
 - カ 生徒が参加する校外の行事やボランティア活動に学校として積極的に関わる。

キ 組織運営で大切なことは、

- 「仕事分担、役割を明確にすること」
- 「自己の責任を果たすこと（何を、いつまで、どのように、どうするか）」
- 「常に先を見通した計画・立案に心がけること」
- 「分掌や学年、委員会、教科部会の中に協力体制を築くこと」です。

全教職員が同じベクトルに向いている

- 生徒指導に関する
共通理解・共通実践
- 『自育力』の育成
- 建設的な和～みんなの向陽中学校～

9 今年度の計画（学校経営の重点）

- (1) 平成 28 年度教育課程届を基に教育活動を実践する。特に、教育目標「◎よく考える人 ○思いやりのある人 ○たくましい人」の具現化を図る。
- (2) 今年度の特色ある学校づくり「自らの行動を律し、“なりたい自分”に近づける力を身に付ける向陽中生」を推進する予算（9万2千円）を有効かつ計画的に活用する。“自育力”と“表現力”の育成に生かす。
- (3) 1年間の学校生活目標を学期毎に示すことにより、1年間での生徒の成長を実感できるようにする。そのために、「心に響く指導！」と「わからせる指導！」を土台として、生徒の集団力を高める。
 - 第1学期「明るい向陽を創ろう！」
 - 第2学期「たくましい向陽を創ろう！」
 - 第3学期「誇りある向陽を創ろう！」
- (4) 生徒会の主体的な取り組みである「いじめ0%5か条」を学校全体に広め、学校が和やかで温かな雰囲気にもまれるようにする。
 - 第1条「ありがとうを言おう！」（ありがとうは魔法の言葉）
 - 第2条「助け合おう！」（助け合いのサイクルをつくる）
 - 第3条「ほめよう、ほめられよう！」（胸がぼかぼかして幸せになる）
 - 第4条「あいさつをしよう！」（心の握手）
 - 第5条「気遣いを大切にしよう！」（思いやりで相手を救う）
- (5) 重点目標と方策
 - ① 「生徒の主体的な学習を演出する授業を実践し、『自ら考える』土台づくりと

学習習慣の定着を図る」※継続（よく考える人）

- 5教科のデジタル教科書の導入に伴い、5教科でICTを活用した授業を実践する。ただし、導入時期の差を考慮し、国語・数学・理科・社会については試行段階を経て実施回数を増やすようにする。また、全教科でICTを活用した授業公開を年2回実施する。（ICTの活用2年目）
 - 全教科でグループ学習などの生徒同士の「学び合い活動」を取り入れた授業を行う。昨年度より充実させる。（アクティブラーニング2年目）
 - 全教科で学校図書館を活用した授業を各学期1回以上行う。（平成28年度学校図書館活用モデル実践校としての取組）
 - 国語の「漢字チャレンジ」、数学の「ドリル学習」、英語の「スペリングコンテスト」を実施する。（基礎学力の定着）
 - 7月に生徒による授業アンケートを実施する。生徒は自己の学習状況を振り返り、教員は生徒の声を取り入れた授業改善プランを作成し、2学期以降の学習活動に生かす。（学習姿勢の改善、授業改善）
 - 5日間の夏季パワーアップ教室、土曜日・日曜日10日間のKOYOスタディ、学生ボランティアを活用した授業等を行う。（基礎学力等の定着）
 - 5教科の家庭学習の定着を図る。4月に「家庭学習の手引き」※1を配付し指導する。年間を通して活用させ、家庭学習タイム毎日1時間の達成を目指す。（学習習慣）
- ② 「自分を大切にできる心と他人を大切にできる心を育て、『思いやりと感謝』を実践できるようにする」（思いやりのある人）
- 「特別の教科 道徳」の授業を計画的に実施し、自他のいのちを大切にできる心を育てる。年6回（5月・6月・9月・10月・2月・3月）の「いのちの教育」を実施する。
 - 生徒が自ら声に出してあいさつができるようにするため、年間を通して「あいさつ運動」を展開する。生徒会「いじめ0%5か条」の取組を生かす。（人間関係づくり）
 - 学級活動において、一人一人の生徒が係や委員、班活動などの自己の役割を果たすとともに、お互いに協力して活動できるよう指導する。（自己有用感、助け合い）
 - 年3回の「地域清掃」を行うとともに、地域等でのボランティア活動に参加させる（生徒一人1回参加）。（自己有用感、社会貢献）
 - 生活指導基本方針の「指導の重点」の1つ「いじめのない学校をつくる」の具現化を図る。そのために、①毎月の全校朝礼や生徒会朝礼で全校生徒に呼びかける。②6月と11月のふれあい月間、9月の教育相談週間を活用し、生徒の実態を把握する。③毎週開催のいじめ防止校内委員会（企画委員会）で情報共有や対応策の検討等を行う。④保護者と「本校いじめ防止基本方針」の内容を共有する。
 - 学校生活アンケート（いじめ・悩み相談）を毎学期（6月・11月・2月）行い、生徒間のいじめや悩み等を把握する。
- ③ 「自らの課題に向き合い、困難を乗り越える力を身に付けさせる（個人）。また、生徒の『集団力』を高め、生徒の自主性を育てる（集団）」（たくましい人）
- 各学期のはじめに自己の課題に向き合う目標を決めさせ、学期の終わりに成果等を

振り返えさせる（年3回、自己評価表で評価）。

- 年5回の定期考査に向き合わせるために、学習計画表を活用したテスト勉強にしっかりと取り組ませる。（学力向上）
- 部活動の指導を通して、生徒に技術面や精神面の課題に向き合わせ、継続的に繰り返し取り組ませる。（課題克服、諦めない心）
- 運動会や向陽祭、学年の宿泊行事、そして部活動の指導を通して、発達段階を考慮した指導を心がけ、生徒自身の手による取組を推進する。（自浄作用、集団力）
- 毎月の生徒会朝礼において、これまでの各委員会の取組報告に加え、朝礼前後の学校行事や学年行事の取組について、実行委員会や担当学年より全校生徒に呼びかけたり、実施報告をさせたりする。（意識の高揚、成果の共有）
- 生徒会の「いじめ0%5か条」の取組を具現化する。その取組を1学期に高三小と永福小の児童会に伝えるとともに、7月開催の「すぎなみ小・中学生未来サミット」で発表する。（ひまわりノート、あいさつ運動等）
- ④ 「自らの行動を律し、“なりたい自分” に近づける力を身に付ける。そのために、“がんばれ！ 自分！” を合い言葉に『自育力』を育てる」※3か年計画
- 生徒の発達段階や個人差を考慮し、生徒一人一人が身に付けるべき自育力を下記の「自育力を育てる習慣づくり14か条」を参考に生徒に決めさせる。※2

①規則正しい生活は成功につながる習慣づくり	⑧自分の役割を楽しむ習慣づくり
②自分から声を出してあいさつをする習慣づくり	⑨人のために行動してみる習慣づくり
③“ありがとう”を毎日言う習慣づくり	⑩お互いさまの精神で助け合う習慣づくり
④感情をコントロールする習慣づくり	⑪ちょっとした工夫でやり方を変える習慣づくり
⑤くよくよせずに失敗から立ち直る習慣づくり	⑫活動の範囲を広げ、挑戦する習慣づくり
⑥我慢強く、ねばり強くくり返す習慣づくり	⑬人や書物、作品などから学ぶ習慣づくり
⑦小さな目標を達成する習慣づくり	⑭「指示待ち」→「自ら行動する」習慣づくり

- 生徒が各自、校内及び校外での活動、そして家庭での生活を通して、自己の課題にしっかりと向き合い、課題解決に取り組むよう指導する。また、保護者と連携し、生徒の課題解決の取組を支援する。※2
- 「特色ある学校づくり」予算を計画的に執行する。①専門家による出前授業「ソーシャルスキルトレーニング」②専門性の高い講師による「朗読」学習 ③プロの落語家による出前授業「笑育」（表現力の育成）
- ⑤ 「全教職員が『建設的な和 ～みんなの向陽中学校～』の下、組織的活動を展開する」
- 教員一人一人が当事者意識をもって生徒指導にあたる。特に生徒指導に関する課題（服装・言葉遣い・マナー・授業規律など）に対しては、教員間や学年間の連携により対応にあたる。また、生徒の問題行動に対しては毅然とした態度と全校体制で指導にあたる。
- 学年や分掌組織のチームワークを大切に、学校全体として組織的・機能的な学校

運営を行う。

- 食物アレルギー対応には万全を期す。そのために、全教員が「向陽中学校の給食アレルギー対応」を共有する。また、食物アレルギー対応委員会（職員会議）を月1回開催し、取組の状況確認や改善等について話し合い、情報提供を行う。
 - 毎月19日の「食育の日」に栄養士作成の「食育だより」を朝読書の時間に担任が読み上げ、生徒に食育を行うとともに、給食の食べ残しを減らすよう呼びかける。
 - 毎朝の「10分間朝読書」には全校同一步調で指導に当たる。また、学校司書による年3回のブックトーク、毎月19日の「食育の日」の取組、国語科の指導による読書新聞づくり2回を行う。
 - 年5回の保護者会（年10回のPTA役員会・運営委員会）や年2回の三者面談等で保護者との同一步調の協力関係をつくり、学校と家庭が連携して生徒の教育にあたる。
 - 学校運営協議会や学校支援本部、KSCC（向陽スポーツ文化クラブ）との連携により生徒の学びをより深める。
- ⑥ 「高三小・永福小との連携・交流により、この地域の子どもをみんなで育てる環境をつくる」
- 小中一貫教育コーディネーターを中心に年3回の合同研修会を充実させ、オープンな気持ちと柔軟な考えで小学校の先生方と相互理解を図る。特に、学習指導での連携を図る。
 - 9月に小学6年生の体験授業「小六プログラム」と部活動体験を行う。また、12月に中学1年生による「母校訪問」を行う。さらに、3月に生徒会プログラム「ようこそ6年生」を行う。（中学校を身近に感じてもらう、中学校への期待が膨らむ）
 - 7月開催の「すぎなみ小・中学生未来サミット」に向け、1学期に生徒会が小学校を訪問し、「いじめ0%5か条」の取組について説明し、小学校での取組を促す。これらの取組を7月のサミットで報告する。

